

水俣病情報センター 特別展開催中!

メチル水銀中毒の未然防止に向けた、メチル水銀の体内蓄積量を減らす食品成分、メチル水銀毒性センサーの開発、メチル水銀毒性防御を担う含イオウ分子などの基礎研究、そして研究機関としての地域・国際貢献の軌跡を紹介しています。



本展は
VRでも展示が
観られます



NIMD PLUS YOU

環境省 国立水俣病総合研究センター 広報誌 ニムドプラスユー

研究室の紹介

国際・総合研究部
水銀分析技術研究室

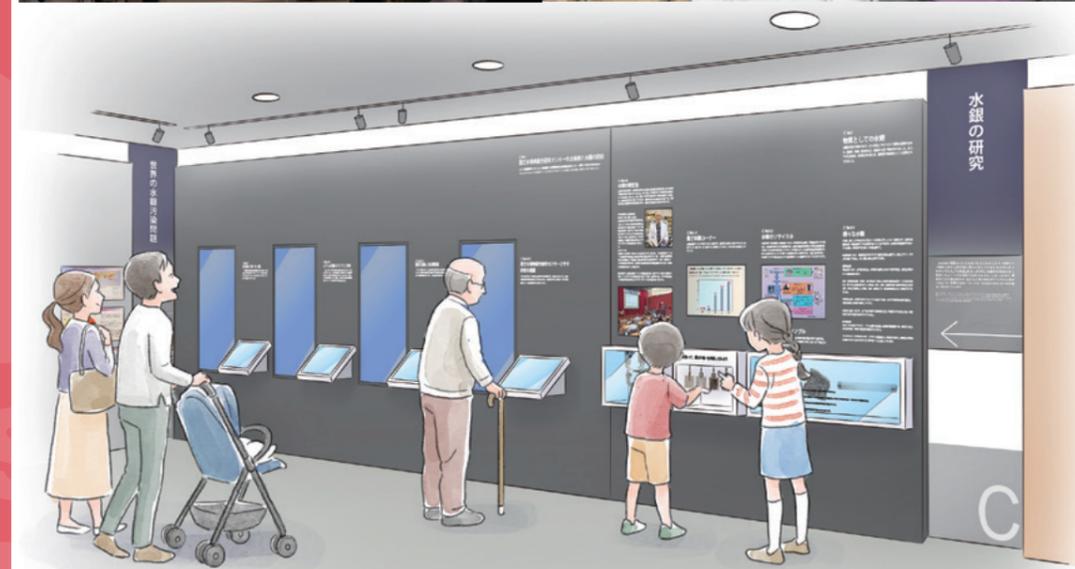
国際・総合研究部
国際・情報室

トピックス

常設展示が
リニューアルしました!

NIMDフォーラム
2023を開催

「生体金属作用学講座」
を設置



No.
56

令和6年(2024年)3月発行

<http://nimd.env.go.jp>

国水研の動き

令和5年8月
～令和6年1月

- 7/5 長崎大学大学院国際健康開発コース
博士課程短期フィールド研修受入れ
- 8/2 水俣環境アカデミア慶應義塾大学及び
アジア地域大学による水俣現地
フィールドワーク受入れ
- 8/17 日本通運株式会社研修受入れ
- 8/30 水俣条約事務局事務局長視察
- 9/11 熊本保健科学大学臨床実習
- 10/26 東京都中央区議会議員視察
- 11/16 上天草市研修受入れ
- 11/17 水俣環境アカデミア公共政策プログラム
インターンシップ日越大学公共政策
修士プログラム受入れ
- 11/18-19 NIMDフォーラム2023
- 11/30 札幌開成中等教育学校研修、
札幌旭丘高等学校研修受入れ
- 1/18 環境調査研究所環境問題史研修受入れ

国立水俣病総合研究センター (NIMD)のロゴマークについて

「水」の字をもとに、水俣の川と海をイメージし、また左側は「大人」、右側は「胎児」と水俣病で犠牲になった方々をも表しています。環境汚染による被害が二度と発生しないよう思いを込めて、「本来あるべき美しい自然の色」である水色や緑色で表現しました。



NIMD National Institute for Minamata Disease

国水研への アクセス



- みなくるバス
青バス湯の尻線 とんとん峠下車 700m(徒歩約12分)
- JR 新水俣駅から5.5km
- 肥薩おれんじ鉄道 水俣駅から4.6km

facebookでも
情報発信して
います!

はじめに

「NIMD+YOU」を手にとっていただきありがとうございます。

「NIMD+YOU」は、環境省国立水俣病総合研究センターの日々の活動や研究成果を、できるだけ分かりやすくお伝えすることを目的に平成26年に創刊しました。

今号では、新たに当センターに着任した前田所長と今年度9月より入職した菊池臨床検査技師の紹介をします。

そして、水銀分析技術研究室と国際・情報室の日々の取組や成果についても紹介します。

また、NIMDトピックスでは、水俣病情報センター常設展示リニューアル及びNIMDフォーラム2023の様子、生体金属作用学講座について掲載しています。

今後も皆様のご意見などをお伺いしながら内容を充実させ、情報発信を行っていききたいと思います。

引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。



国立水俣病総合研究センター 所長就任挨拶

所長 前田 光哉

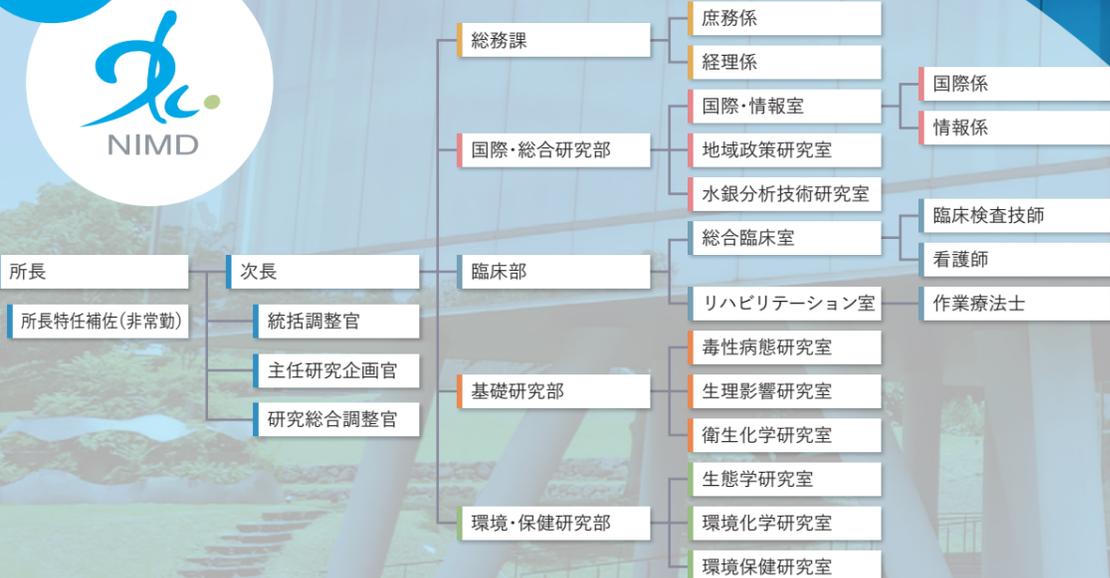
令和5年10月1日付で、国立水俣病総合研究センターの所長に就任しました前田光哉です。

出身は兵庫県で、神戸大学を卒業した後、厚生省(当時)に医系技官として就職し、これまで公衆衛生、労働衛生、食品安全、健康危機管理の分野の業務を経験し、秋田県、山口県、神奈川県で地域保健行政を担当してきました。環境省では平成28年から30年まで環境保健部の放射線健康管理担当参事官として、放射線による健康影響に関するリスクコミュニケーションや調査研究を担当していました。前職は独立行政法人国立病院機構理事で、国内の140病院からなる病院グループのマネジメントを担当していました。私は人工の埋立地が広がっている神戸の海に慣れ親しんできたためか、こちらの八代海のように自然の風景が多く残されている、きれいな海を眺めていると落ち着きます。海のある水俣で仕事ができることに感謝しております。国立水俣病総合研究センターでは、水俣病に関する研究の推進拠点として設置されてから40年以上経ちますが、WHO協力センターとして国際的に水銀研究推進を進めるとともに、水俣病に関する情報の収集・発信と関連する研修などを実施しています。

今後とも、研究者や職員からの意見を頂きながら、国民の皆さまのご期待に応えられるよう業務を推進していきたいと考えています。引き続きのご支援ご協力をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



組織体制



新入職員紹介

臨床部 総合臨床室 臨床検査技師 菊池 有梨

令和5年9月より国立水俣病総合研究センター臨床部 総合臨床室に入職しました菊池有梨です。熊本大学を卒業して臨床検査技師の資格を取得後、大学院で研究を行っていました。水俣出身ということもあり、脳磁計やMRIを使った水俣病の研究に興味を持ちました。研究の基礎となる神経生理検査や神経放射線医学の技術習得に努め、臨床部での研究に役立てるよう精一杯頑張っています。散歩をするのが趣味で、道中大好きな犬や猫に会えると元気が出ます。これからどうぞよろしくお願いいたします。





国水研の研究室

N I M D L a b o r a t o r y



室長
原口 浩一

国際・総合研究部

水銀分析技術研究室

研究室の取り組み・目的

水銀分析技術研究室は、各国の試験所に供給するための精度管理物質を開発し、分析能力の評価機会を提供しています。異なる地域や国でデータ品質を確保する協力を通じて、水俣条約のモニタリングと有効性評価に積極的に取り組んでいます。

研究内容

継続的な健康監視のための水銀モニタリング技術

低所得及び中間所得地域で金属水銀を利用した作業環境下での水銀曝露リスクを重視し、その監視のためのモニタリングに取り組んでいます。これにより、効果的な対策を講じ、健康被害を最小限に抑えることを目指しています。

モニタリング試料の水銀測定



水銀モニタリングデータの精度向上



分析精度管理物質

水俣条約の有効性評価において重要なのが、試料分析の精度向上です。異なる研究所での実施が予定されているため、測定値の比較可能性が求められます。そこで、私たちは精度管理物質を開発し、これを国内外に提供しています。これは、測定装置の校正や測定方法の評価に使用されます。また分析能力の評価機会となる技能試験を定期的に行い、分析品質の継続的な向上を実現しています。



水銀分析



主査
押田 崇之

情報係長
槌屋 岳洋

室長
三宅 俊一

国際係員
小林 三希子

国際・総合研究部

国際・情報室

研究室の取り組み・目的

国際・情報室は、エコパーク・まなびの丘にある水俣病情報センターを拠点として、海外研究者の招聘や国際会議開催等の国際連携に係るサポート、また水銀に関する様々な情報の発信や水俣病関連の資料整備を行っています。

研究内容

国際系の業務

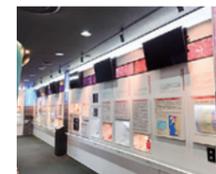


NIMDフォーラム

国立水俣病総合研究センター主催の「NIMDフォーラム」は、毎年度開催され(海外と国内を隔年)、国際的な水銀に関する研究の発展・推進に寄与しています。NIMDフォーラムをはじめ、水銀影響の評価や研究の推進には海外研究者との共同研究は欠かせません。国際系では、海外研究者の招聘や国水研研究者の海外派遣業務などをサポートしています。

情報系の業務

水俣病情報センターでは、水俣病や水銀に関する情報発信、貴重な関連資料の保管・整備を行っています。展示室では、最新の研究紹介や、国水研が実施する国際貢献活動・地域貢献活動の紹介、水銀の性質や動態について分かりやすく紹介しています。また、現在の水俣の美しい映像の鑑賞もでき、屋上からはエコパークや八代海を望むことができます。より親しんで学習ができる施設にするため、情報整理や施設管理を行っています。



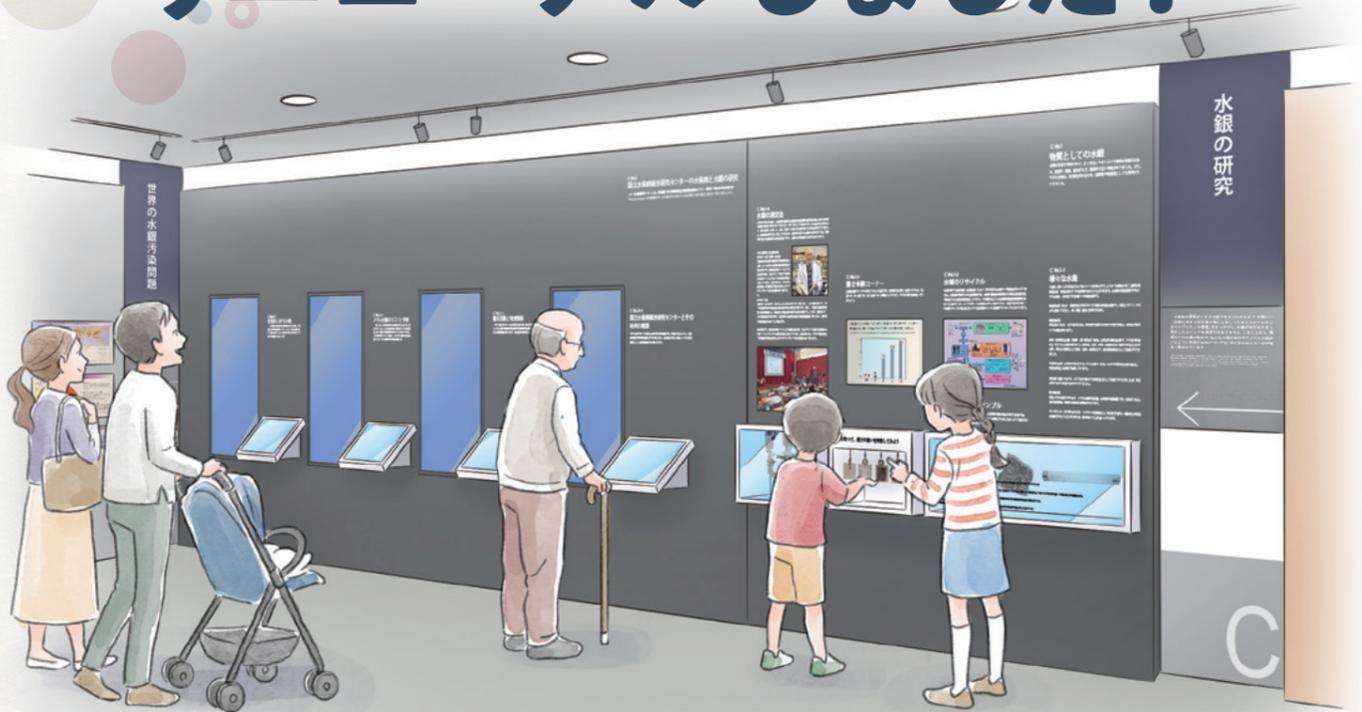
水俣病情報センター 展示室



水俣病情報センター

令和6年3月2日(土)

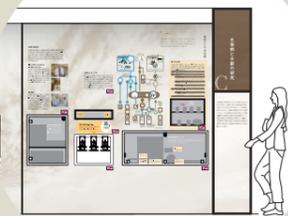
水俣病情報センター 常設展示が リニューアルしました!



イメージバース

令和6年3月2日(土)に水俣病情報センターの 2階 常設展示を全面リニューアルしました。

国立水俣病総合研究センターの附属施設という特徴を生かし、水俣病発症のメカニズム、水銀や水俣病に関する最新の研究など科学的コンテンツの展示を強化しました。また、デジタルサイネージを新たに導入し活用することで、研究成果や活動に進捗があった場合など常に最新のコンテンツを紹介できるようになるほか、研究機器などの実物展示も充実させています。是非来館いただければ幸いです。



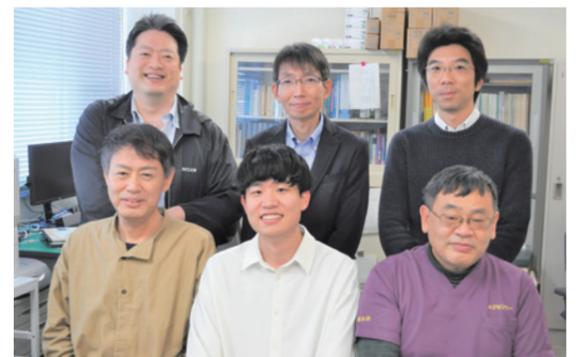
NIMDフォーラム2023を開催

令和5年11月18日(土)、19日(日)の2日間、水俣病情報センター講堂にて、NIMDフォーラム2023を開催しました。「水俣条約の有効性評価に資するアジア太平洋及びアフリカ地域の環境中水銀モニタリングの現状と課題」をテーマに、国内外から専門家をお招きしました。水銀に関する水俣条約が平成29年に発効されて5年以上が経過し、その有効性を評価する大事な時期が来ています。その有効性評価において重要な位置付けとなる環境中の水銀モニタリングについて国内外の研究者や学生が現状を報告し、今後の課題・方向性について議論しました。



「生体金属作用学講座」を設置

令和5年4月1日より、国立水俣病総合研究センターに「生体金属作用学講座」(岡山大医歯薬学研究所の学外講座)が設置されました。現在、学生は岡山大学から国水研に出席してきている三木君ですが、今後、学生を増やして活性化していきたいと考えています。本講座における修士号又は博士号取得に興味がある方は、年2回開催されるWeb説明会で話を聞いてみてください。



後方左から、客員准教授の住岡、永野、鶴木
前方左から、客員教授の藤村、三木君(岡山大学の学生)、客員教授の中村